

文化生活・教育常任委員会 管内調査
令和7年1月14日（火）

1 京都府立京都学・歴彩館（京都市左京区）

【調査事項】

施設の現状や文化財の保存活用状況について

【調査目的】

京都府立京都学・歴彩館は、京都に関する資料の総合的な収集、保存、公開機能に加え、京都の歴史・文化に関する研究支援や学習・交流の機能を有する施設であることから、その現状及び文化財の保存活用について調査を行う。

【調査内容】

京都府立京都学・歴彩館は、京都に関する資料の総合的な収集、保存、公開を50年以上にわたり担ってきた府立総合資料館に、京都の歴史・文化に関する研究支援や学習・交流の機能を加えた拠点として、平成29年にリニューアルオープンした。①世界とつながる京都学の研究・交流拠点、②誰もが学べる交流・発信拠点、③京都関係資料の収集・保存・公開拠点の3つを柱として、学習及び交流の場の提供と文化の発展及び学術の振興に寄与している。

同館では、約40万冊に及ぶ京都の歴史や文化、教育等に関する図書資料に加え、京都府行政文書や国宝である東寺百合文書をはじめとした文化財を数多く収集、保存し、それを府民に広く公開だけでなく、各種講座やイベントを開催するなど、京都について楽しく学ぶ機会を提供している。また、収蔵資料の多くを府民が手にすることができるよう、行政文書等のレプリカを作成し、保存状態の維持に努めるとともに、資料のデジタル化も進めている。約4000タイトルの図書資料や写真資料、古文書などをデジタル化しており、資料を公開するサイトには1日に約700回のアクセスがある。

新型コロナウイルスの影響による休館や開館時間の短縮に伴い、令和2年度には来館者数が約6万7000人と前年度の約26万人から激減したが、令和6年4月から12月の来館者数は約19万人となり、徐々に回復傾向にある。今後は、SNS等を活用しながら広く府民への周知を行うほか、誰もが学べる交流・発信拠点機能の強化を図る取組をより一層進めていくとのことであった。

【主な質問事項】

- ・災害マニュアルの作成について
- ・子ども連れを対象にした取組について
- ・収蔵資料のデジタル化について
- ・文化財の収納スペースについて など



調査事項を聴取



施設視察

2 学びの森フリースクール〔於：亀岡総合庁舎〕（亀岡市）

【調査事項】

学びの森フリースクールの現状について

【調査目的】

学びの森フリースクールは、京都府の認定フリースクールの一つとして、不登校経験のある子どもたちが学びを通じて自信を取り戻し、多様な大人との関わりの中で自分の将来を前向きに考え次の進路へと進んでいくよう支援を行っていることから、その現状について調査を行う。

【調査内容】

不登校児童生徒数は全国的に増加傾向にあり、京都府においても12年連続で増加していることから、不登校の未然防止や学校などにおける相談体制の確立が進められている。また、平成20年から全国に先駆けてフリースクール連携推進事業を実施しており、京都府教育委員会が協働施設として認定したフリースクールに対し学校と連携した教育活動への助成を行っている。

京都府認定フリースクールの一つである学びの森フリースクールは、不登校やひきこもり傾向にある子どもたちを対象に、質の高い教育を提供し、誰一人取り残さない共創的な学びの場を実現するため、平成12年に開校し、現在は約30人が通学している。個々の児童生徒ごとの時間割を作成するなど、各児童生徒に合わせた教育を行う構成主義的教育を採用しているほか、近隣小学校のグラウンドを利用した授業や文化生活部が実施している地域交響プロジェクトを活用した教養講座など、幅広い学びを展開している。また、義務教育と同等の年間約1000時間のカリキュラムを組んでおり、学校に近いフリースクールとして質の高い教育を提供するための環境を整備している。

質の高い学びを担保するため、約30名の児童生徒に対して10名のスタッフが対応しているほか、大学と連携した人材確保、教員を退職したシニア人材の活用などを進めていることから多額の運営費用を必要とし、利用者の負担が大きいことが課題となっている。

今後は、増加が予想される不登校児童生徒を受け入れるための施設拡大や、行政との連携強化を進めていきたいとのことであった。

【主な質問事項】

- ・コロナ禍前後の不登校の変化について
- ・学校の在り方について
- ・保護者の負担について
- ・入学者の状況について など



調査事項を聴取